

常照

第873号

「遠く宿縁を慶べ」

私たち真宗門徒は「南無阿弥陀仏」とお念仏をお称えいたします。

先般、古くからの友人のお父様が亡くなられて、以前から「そうなった時には……」と約束していたので、真宗の方ではないのですが私がお葬式をおつとめさせていただきました。

友人の願いもあって、火葬場で火屋（ひや）勤行をおつとめした後、厚かま

しく収骨までもお付き合いさせていただきました。

収骨までの間、控室でお弁当をいただき、ご親戚の方々とお話をしていました。

その中のお一人が「お坊さんのお念仏は、私の知っているのとちよつと違いますね。本当はなむなんですか、なもなんですか、なんまんだぶつなんですか。一体どうなんですか？」と私に質問されました。

「うーん」とちよつと考えるふりをしてから私は、以前ご法話で聞いた話を思い出して、その方にお話ししました。「字をそのまま読んだらなむあみだぶつですよね。南無と書いてなもとは読め

ません。しかし、私たち本願寺派では
なもあみだぶつとお称えますし、私
は普段ナマンドブ・ナマンドブと称え
ます。お念仏を称えるのは、お父さん、
お母さんと親を呼ぶのと同じだそうで
す。おとうさん、おかあさんと呼ぶ方
もあれば、パパ、ママと呼ぶ方もあり
ます。おとうちゃん、おかあちゃん
と呼ぶ方もあれば、とうさん、かあさん
と呼ぶ方もおられます。それぞれに少
しずつ呼び方は違って、親を呼ぶこ
ころは同じでしょう。信頼と親しみを
込めて、口にするだけで安心できる親
の名を呼ぶそのころは同じなのだ、
と教えていただきましたよ」とお伝え
しました。

話を聞いてくださったその方は「ふー
ん」といつておられました。

さて、皆さんはお念仏お称えます
よね。それは、いつからですか。何歳
頃からでしょうか。昭和ですか、平成
ですか、それとも令和になってからで
すか。オレは何年の何月何日から念仏
すると決めたんだ、といってお念仏し
ておられる方はいらっしゃいますか。
そうではありませんよね。いつの間に
か、お念仏していたのではありませ
んか。いつの頃からかは知らないけれ
ど、気がついたらナマンドブツ・ナマン
ダブツとお念仏を称えていました、と
いうのが正直なところではないですか。
私もそうです。いつの間にかお念仏す

るように育てていただいていたいました。

仏教では、私たちが人間に生まれてくることはとても難しいことなのです。よと、教えてくれます。私の方からはわかりません。だって、父も母も、祖父も祖母も人間だったのだから、私人間に生まれてくるのは当然だ、とか思えません。しかし、長い長い、いのちの歴史の中で、あるときは餓鬼であったり、あるときは畜生であったりと、生まれ変わり死に変わりしているうちに、やっとご縁がととのって今、人間としてのいのちをいただいているのだ、と教えてくれます。そして人間と生まれて、そのうえで南無阿弥陀仏の念仏のすくいに出遇うことは、さら

に難しく稀なことなのだそうです。

大元をおたずねすれば、阿弥陀さまが私を助けるためにご本願を建ててくださったって、それをお釈迦さまがお経に説いてくださった。そして多くの祖師方がその教えを詳しく伝えてくださり、親鸞聖人が顕かにしてくださったのでした。その間、多くの名もない方々が「なまんだぶ・なまんだぶ」と、お念仏を相續してくださって、いま私のところまで届いているのです。

親鸞聖人は『阿弥陀如来のたいなるご本願は、いくたび生を重ねてもあえるものではなく、まことの信心はどれだけ時を経ても得ることはできないのです。思いがけずこの真実の行信（南

無阿弥陀仏)を得ることができたら、
遠く過去からの因縁をよるこんでくだ
さい。もしまた、このたび疑いの網に
おわれたなら、果てしなく長い間、
私たちは迷いの生を繰り返さなければ
なりません。」と仰せになっています。
せっかく人間に生まれさせていただ
き、さらに、「大丈夫大丈夫、必ず救うぞ、
いつも支えているぞ。」という阿弥陀如
來のご本願に出遇えたのです。

そもそも、念仏を称えるはずのない
私が念仏を称えられるように、長い時
間かかってお育ていただいたいたので
あります。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 二二一〇七四番
FAX (〇三三) 二九一四〇八番
テレホン法話 二七一一六一番

弥陀大悲の

誓願を

ふかく信ぜんひとはみな

ねてもさめても

へだてなく

南無阿弥陀仏と

となうべし

正像末和讃